

輸送路における放射線量率の測定

輸送車両の通過地点のうち交差点や速度低下地点において、遮へい板付きの測定器を用いて周囲の放射線の影響を除去し、車道から歩道方向に入射する放射線量率の変化を測定している。



輸送路における放射線量率の測定結果

	当該地点を通過した輸送車両数 [台]	うち通過時に線量率の増加が観測されたもの[台] ^{※1}	(参考) 当該地点の空間線量率 [μSv/h] ^{※2}	(輸送車両通過時)		
				追加被ばく線量率 (瞬間最大値) [μSv/h] ^{※3}	線量率の増加が観測された時間(累積) [分] ^{※3}	追加被ばく線量(累積) [μSv]
①知命寺 ^{※4}	-	-	0.16	-	-	-
②高瀬	7,883	669	0.20	1.97	376	0.60
③国道288	820	0	0.22	-	-	-
④常磐富岡IC	16,092	58	0.75	0.04	8.7	0.005
⑤広野IC	1,279	8	0.16	0.03	1.3	0.0005
⑥南相馬IC	725	36	0.14	0.03	6.3	0.002
⑦相馬IC	1,827	59	0.15	0.03	14	0.005

※1 各地点の放射線量率の測定結果について「測定期間の平均値＋標準偏差の3倍」を超過した輸送車両数。

※2 平成29年3月時点。

※3 測定は20秒単位。

※4 平成28年度は輸送車両の通過実績が無かった。

輸送路における放射線量率の測定結果(平成28年度:平成28年4月～平成29年3月)

<評価>

輸送車両が通る時などに、数十秒間程度、平常時より高い放射線量率が観測される場合があったが、追加被ばく線量は十分に小さいことを確認した。

引き続きモニタリングを実施していく。